

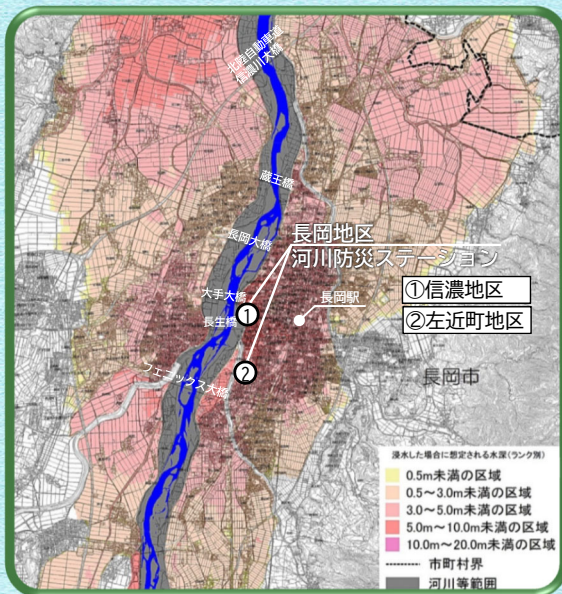
信濃川 長岡地区の概要

長岡市妙見町から長岡市街地北部に至る約15kmの区間には、信濃川が作った扇状地が広がっています。扇状地には旧河道がいくつも見られ、かつての河道は網目模様を作り複雑な流れをしていました。長岡地区は、昔から氾濫を繰り返し、複雑な旧河道がつくり出されたため、堤防からの漏水が起こりやすい地形となっています。

浸水想定区域図（想定最大規模）では、長岡市街地のほとんどが浸水します。このため、水防活動が重要な意味を持ちます。



令和元年東日本台風の際の水防活動
(長岡市横下地先)



長岡地区の浸水想定区域図（想定最大規模）

長岡地区河川防災ステーションの位置図



お問い合わせ



信濃川河川事務所 流域治水課
〒940-0098 新潟県長岡市信濃1-5-30 TEL:0258-32-3243



長岡市 河川港湾課
〒940-0062 新潟県長岡市大手通2-2-6 TEL:0258-39-2233

信濃川 長岡地区 河川防災ステーション

～洪水時の緊急対応拠点～



令和6年5月



国土交通省 北陸地方整備局
信濃川河川事務所



河川防災ステーションは、洪水時に市町村が行う水防活動を支援し、水害が発生した場合には緊急復旧などを迅速に行う基地になるとともに、平常時には地域の人々の交流や憩いの場として、また河川を中心とした文化活動の拠点として活用される施設です。

長岡地区河川防災ステーションは信濃地区と左近町地区の2箇所に分かれています。

信濃地区は、国土交通省が基盤整備や災害対策車輛等を、長岡市が水防センターを整備し、**国と長岡市の情報共有及び水防活動の拠点**となります。

左近町地区は、国土交通省が災害対策車輛庫、緊急復旧資材やヘリポートを整備し、**洪水時の資材備蓄の拠点**となります。

もしもに備えながら、
普通に利用する。

信濃地区の水防センターは、洪水時の資材の一部も備蓄します。また、防災学習の拠点や各種イベントでの活用、川側にある広い河川敷はレクリエーションでの利活用が期待されます。左近町地区は、主に洪水時の資材を備蓄します。



備 蓄 資 材		
	種 別	規 模
信濃	土 砂	900m ³
	コンクリートブロック	985個
左近町	土 砂	16,000m ³
	玉 石	2,800m ³



備蓄資材使用例
 コンクリートブロック：堤防や河床の侵食・洗掘部に投入し、侵食・洗掘の拡大を防ぎます。
 土 砂 ・ 玉 石 ：堤防や護岸等の被災時に復旧材料として使用します。

水害時は、日常を取り戻すための拠点となる。

水害時、信濃地区は水防センターとして様々な情報収集を行いながら、**水防の活動拠点**となります。左近町地区では、備蓄資材の運搬やヘリコプターの離発着が行われます。



排水ポンプ車



台風や集中豪雨により宅地や道路が冠水した際、被害を最小限に抑えるためにあふれた水をくみ上げて川に排水する車両です。

1分間に30m³の水を排水することが可能です。
 (揚程10m時)
 〔例：25mプールの水を13分で空にする能力があります。〕

●排水ポンプの性能
 30m³/min (ポンプ単独時 全揚程10m)
 15m³/min (ポンプ連結時 全揚程20m)
 5.0m³/min×6台



平成23年7月新潟・福島豪雨 災害対応 (魚沼市古新田)

照明車



2本の伸縮ポールの先に取り付けられた照明ランプにより、夜間の復旧作業が可能になります。

電源は車両荷台に搭載した発動発電機により供給します。

照明は、300m先で新聞を読む事ができる程度の明るさで照らすことが可能です。

●照明装置
 照明灯出力 1.3kW×3灯×2組
 ランプ型式 LEDランプ



令和元年東日本台風 災害対応 (南魚沼市今町)



平成23年7月新潟・福島豪雨 (燕市・越後線橋梁)



平成23年7月新潟・福島豪雨



令和元年東日本台風 (長岡市西蔵王)

令和元年東日本台風 (南魚沼市今町)